

氏名	近藤喜太
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4813 号
学位授与の日付	平成 25 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Management of peritoneal effusion by sealing with a self-assembling nanofiber polypeptide following pelvic surgery (骨盤内手術における自己組織化ナノファイバーペプチドを用いたシーリング効果による術後腹腔内浸出液の管理)
--------	--

論文審査委員	教授 平松 祐司 教授 尾崎 敏文 教授 土井原 博義
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

自己組織化ペプチド PuraMatrix はこれまで機能的細胞培養の培地として利用されていた 16 残基のペプチドである。今回われわれは、ヒトにおける直腸癌手術後の骨盤リンパ瘻における PuraMatrix の安全性とシーリング効果を検証する臨床試験を行った。〈方法〉直腸癌に対して手術を施行した計 20 例の患者を解析した。骨盤剥離後の領域に PuraMatrix を使用した 10 例に対し、従来の方法で手術を施行した 10 例を対象とし、術後ドレーン除去までの排液量を比較した。〈結果〉術後 3 ヶ月のフォローアップにおいて、PuraMatrix を投与された患者群にいかなる異常所見あるいは有害事象を認めなかった。PuraMatrix を使用した群において術後のドレーン排液量は有意に減量していた。〈結論〉PuraMatrix は骨盤領域の術後リンパ瘻管理において、安全で有効な生体適合性を持ったシーリング材料になると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、自己組織化ペプチド PureMatrix を直腸癌手術後の骨盤リンパ漏に対し使用した時の安全性とシーリング効果につき検討したものである。本材使用により、術後ドレーン排液量が有意に減少し、長期フォローアップにても有害事象の発生していないことを証明している。また、本材は液体のため、外科的止血法の困難な仙骨部出血の止血や腹腔鏡手術でも使用可能であることを報告している。

以上より、PureMatrix が骨盤領域の術後リンパ漏管理において、安全で有効な生体シーリング材料になること、他の外科領域手術でも応用できることを証明し、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。